

人口減少・水余りなのにダム推進 ～どうなっているの?! 千葉県の水道

千葉県の「人口減少・水余り」の実情を直視すれば、ハッ場ダムを含む新たな新規水源開発はまったく必要ありません。ところが、千葉県をはじめ県内の自治体は客観的な「事実」に目を背け、相変わらず無駄なダム推進のレールをひた走っています。昨秋開かれた27年度千葉県議会決算委員会の質疑を通じて明らかになった「真実」をお伝えします。

不都合な真実?

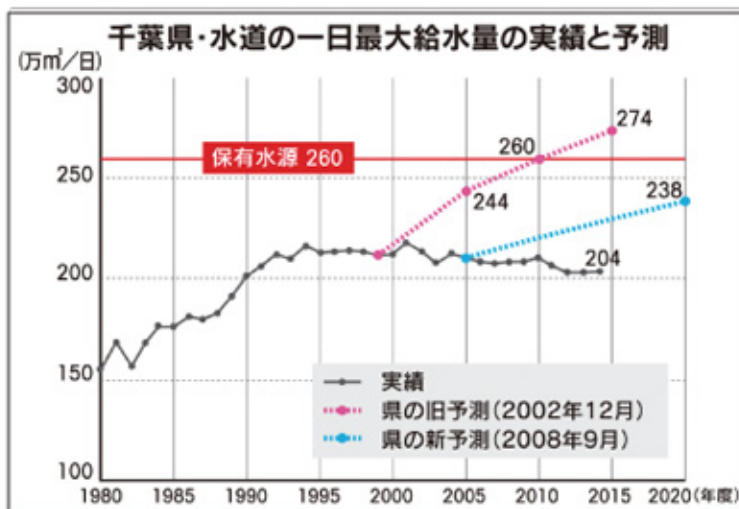
県内の水道事業体における年間給水量は約6億3400万 m^3 、一日最大給水量は約205万 m^3 。これに対して保有水源は毎秒31.227 m^3 あり、一日最大約270万 m^3 まで取水することができます。ですから、現時点でも許可水量の8割しか使っておらず、水は十分足りています。

にもかかわらず、ハッ場ダムで毎秒2.82 m^3 、思川開発で毎秒0.313 m^3 、霞ヶ浦導水で毎秒1.486 m^3 の合計毎秒4.619 m^3 、日量換算で39万9082 m^3 の新たな水源開発を推進しています。その下敷きとなっているのは、千葉県の長期水需給計画であり、2020年時点での一日最大給水量の目標が238万 m^3 は、明らかに過大です。

(グラフ参照)

未利用水に533億円

しかも、これらにかかわる県内自治体の負担金総額は27年度までに約400億円、28年度以降が約151億円。起債利息を含めると、1000億円を超えるのは間違いありません。さらに、県内の6事業体において既に水利権を取得したものの、二十数年間も未だに使われていない「未利用水利権」は毎秒1.352 m^3 。これに約533億円以上の税金を投入したのは無駄遣いだと追及しました。しかし、県当局は「将来の安定給水のために必要」と強弁。水余りを決して認めようとしません。



出典：日本水道協会「水道統計+千葉県の資料」上下水道+簡易水道を示す
*ハッ場ダムは旧予測に基づいて進められている。

遅れる耐震化

不幸なのは、県民です。千葉県水道局だけを見ても、ハッ場ダム完成予定の2019年度時点で2万人程度人口が増える予測にもかかわらず、41万人分の水量を新たに確保しようとしています。あまりにも過大です。

その一方、水道管の耐震化は27年度末現在、基幹管路は53%、全体で18.4%に留まっており、進捗が急がれます。限られた財源は、将来のインフラ整備に優先的に振り向けるべきです。今後も無駄なダム推進を改めるよう県民の声を届け、ねばり強く働きかけていきます。(入江晶子)

編集後記

2004年9月に1337人で住民監査請求をし、2005年2月に、監査請求人宛にニュースNo.1を発行。部数は当初1300でしたが、その後700~800で推移。2015年9月の結審後は、会員を対象に150部ほど発行しています。

裁判は終わっても、ハッ場ダムの問題は解決していません。今後もウォッチングを続けていきましょう。ダムや水の問題などについての投稿も大歓迎です。

(服部かをる)